

九州地区生協様ご来社



会員生協様、コープ九州様、カワタキコーポレーション様と清水社長

高木さん（左より二人目）の製造工程の説明を熱心に聞かれる見学者の皆さん



昨年の十一月七日（金）、八日（土）の二日間、九州地区の会員生協様七名、コープ九州様三名、カワタキコーポレーション様二名の皆さんが来社され、工場見学をされました。その後「ゴキブリキヤップ」拡販の学習会が開催されました。

初日は、自己紹介から始まり、工場見学では皆さんが盛んにメモや写真撮影されていました。その後、タニタケに関するクイズが行われ、皆さん素早く答えられ、時間が余ってしまいました（笑）。

二日目は、ゴキブリだんこの手作り体験をされ、その後デイスカッションなどが行われました。会員生協の皆様は大満足をされていました。

（感想文を五ページ掲載）

鍵山秀三郎さんに学ぶ

精神浄化作用

不思議と、掃除をしているときはきれいな心でやっています。掃除には心をきれいにする精神浄化作用があるように思います。

『一日一話』鍵山秀三郎著より



ネズミ退治には
コロソブロック



ゴキブリ追放宣言

上田三三生先生の

「歴史と人物に学ぶ」

再録⑨

独立自尊（心身の独立をなすとげ、自らその身を尊重する）

福沢諭吉



一万円札の肖像で知られる福沢諭吉は、わが国の代表的啓蒙思想家です。啓蒙とは民衆の古くかたよった考え方を改め、新しい時代にふさわしい生き方ができるように教え導くことであります。福沢は幕末から明治初期、まさしくその役割を果たした人物でした。

ただ戦後教育の中で、まちがって教えられてきた言葉があります。それは「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」です。「学問のすすめ」という彼の本ではこのあと「と言えり」とあって、「という言葉がある」との意味で、福沢の言葉ではないことがはっきりしています。アメリカのジェファソンが書いた独立宣言に似た言葉があるので、それを引用したものでしょう。

「学問のすすめ」では、このような人間平等の考え方がありますが、現実の世の中には貴賤貧富の差別がおきているのはなぜか。それは「学ぶと学ばざるとによるものなり」と指摘し、学ぶことをすすめているわけです。

彼はこの本で「人間平等」を説いたのではなく「学問のすすめ」を説いているのです。その学問とは真剣な学びによって、冒頭にかかげた「独立自尊」の精神を養っていくことを意味します。自主性・独立心を持った人間として目覚めるよう、すすめたのであります。

慶應義塾大学の開設・時事新報の創刊・上野公園西郷隆盛銅像の建立・北里柴三郎博士の研究支援等々、福沢は学問と愛と侠気にあふれた生涯をおくりました。

※福沢諭吉（ふくざわゆきち）明治三十四年、一九〇一年、六十六歳没



北海道師友会前副理事長
上田三三生（うえだ・ささお）先生
平成二十一年十月没・八十一歳

「大きな声のあいさつと返事」の二つで全てが変わる

カリスマ校長と呼ばれた男 大畑誠也

私が皆さまに申し上げたいことは「大きな声を出せたら人生はうまくいく」ということです。

私は保育園から大学まで教育の現場に足を運んでいます。どこに行っても「大きな声のあいさつと返事」を指導しています。大きな声が出るようになるとどういいうわけか、いじめが減ります。仲良くなります。みんな心を開き、会話が楽しくなります。二つ目、スカッとします。心が前向きになります。笑顔になり明るくなります。

三つ目、自信が湧きます。嫌なことを忘れず。悩みから解放され、希望が出ます。

四つ目、人生が楽しくなります。大きな声のあいさつと返事は、心のスイッチをオンにします。そのスイッチが入ればやる気状態になります。

これを言われたのはもう亡くなられましたけど、筑波大学名誉教授の村上和雄先生でした。「イキイキ、ワクワク生きることが遺伝子を活性化させる」と。

声が小さいと遺伝子が活性化しきません。だからやる気が出てこないんです。

リーダーにスイッチが入れば組織は変わります。私は熊本の県立高校の校長を六校経験しましたが、全部改革してきました。生徒数を増やし、進学率を上げ、部活動の成績も上げました。結果を出したから自信を持つていえるんです。

マイナスの気持ちを持つていている人が社長とか学校校長になつたら駄目です。マイナスの思考から成功は生まれません。

成功とは目的を達成することです。どんなことがあっても前向き、プラス思考を維持できないと目的は達成できません。